



スタディサプリ

総合学科こそ、基礎学力向上が 生徒の進路を広げる鍵になる

— 若葉総合高校(東京・都立) —

取材・文／丸山佳子



前列右から
2年学年主任・保健体育 柳澤真宏先生
1年学年主任・英語 高橋昌子先生
後列右から
進路指導部・物理 石井規雄先生
3年学年主任・英語 黒羽博行先生
校長 根本浩太郎先生
3年担任・数学 大越裕紀先生

School Data

創立2005年／総合学科
生徒数711人(男子199人、女子512人)
進路状況(2015年度)大学進学94人、短大進学28人、
専各進学61人、就職28人、その他4人
東京都稲城市坂浜1434-3
TEL 042-350-0300
URL <http://www.wakabasogo-h.metro.tokyo.jp/>

若葉総合高校は、現在10校ある都立の全日制総合学科高校の一つ。生徒が将来の目標に応じて選べる科目群は、「人間探求」「芸術表現」「伝統継承」「情報交流」の4系列で、3年間を通してキャリア教育と進路指導で高い進学実績を誇っている。

学年共通の苦手克服に取り組み、自学の習慣づけに手応え

この春、同校で短大・大学に進学した生徒のうち、一般入試は9人。その他は推薦とAO入試である。1年次からフィールドワークやプレゼンテーション、論文などのキャリア教育に取り組んでいる生徒たちは、推薦やAO入試に強い。しかしその一方で、基礎学力不足という課題も抱えてきた。

「個性ある生徒たちが入学してきましたが、その多くは中学レベルの基礎学力が穴だらけで、自学の習慣に乏しく、学び方が十分に身に付いていない。しかし、推薦やAO入試で大学に入れるので、3年間間、剣に勉強に取り組まずに終わってしまう。そうした生徒への指導体制の構築が、教師たちの悩みでした。この課題解決策と

■「スタディサプリ」の活用術

●学年共通の苦手分野克服からスタート

4月と9月の到達度テストから学年の苦手分野を抽出し、講義動画の確認テストを夏季と冬季の共通課題に。この方法なら、教師負担も少ない。



●講義の確認テストを朝学習などでも活用



中学総復習から高校3年までの講義動画の確認テストは、コピーをして進路指導室に保管。夏季・冬季の課題のほか、朝学習などでも活用している。

●「スタディサプリ」を定期考査学習に

写真は「スタディサプリ」も含めた定期考査の学習範囲を記した学習計画シート。計画的な勉強のアドバイスが生徒に好評だ。



●AO・推薦対策講座を説明会で活用



「スタディサプリ」の講座も、生徒への説明会で活用している黒羽先生と大越裕紀先生。今後は、公務員講座なども活用予定だ。

●視聴時間クラス1位で、表彰状を3回獲得。勉強が楽しくなった!

「得意な英語を伸ばしたくて、2年のときから土日は必ず、自宅で『スタディサプリ』を視聴。今は受験対策として現代文にも力を入れています」3年・尖戸アナマリさん



●「スタディサプリ」のシラバスで受験勉強がはかどります



「好きな数学ばかり勉強していましたが、3年になってからはシラバスがあるので、受験勉強がやりやすい。センター問題集もこれから活用します」3年・高田翼丸(はねまる)くん

して導入したのが、予備校講師による講義動画の「スタディサプリ」です。受験対策だけでなく、中学の苦手分野まで復習ができる点が、何よりの魅力でした」

導入時、進路指導部だった高橋昌子先生はそう話す。2014年冬に3年生の希望者に導入し、15年4月、1、2年生に学校の積立金で二斉導入。4月と9月に中学から高校1年、2年次までの到達度テストを実施したところ、テスト結果から、学年に共通する苦手分野が見えてきたという。

「そこで、学年共通の苦手単元の講義動画視聴と、その確認テストを生徒への宿題にし、教師は生徒の視聴状況を把握しながらフォロー。期日までにできていない場合は、放課後に校内のコンピュータ室に呼び出し、補講形式で課題を学習させる通称「サプリツアー」を実施しました。1年間続けたことで、生徒は言われたことがやれるようになった。これは大きな成果です」と、2年学年主任の柳澤真宏先生。生徒各自に対応した細かな苦手克服ではなく、学年単位で必要な苦手克服からスタートしたことが、スムーズな導入につながった例だ。

2年目のやる気UPの仕掛けは「スタディサプリ」と授業の融合

導入2年目の今年には、「スタディサプリ」での自学自習と授業を連動させて生徒のやる気を引き上げるとともに、基礎学力の向上が目標」と根本浩太郎校長。

1、2年生は到達度テストによる苦手克服学習を継続するほか、定期考査対策に「スタディサプリ」の問題も考慮。教科担当が学習範囲を示した学習計画シートを作成し、自学の習慣づけを強化している。

「3年生は希望者のみですが、今年手を挙げたのは、『スタディサプリ』を活用して必ず第3志望に合格したいという生徒たち。昨年とは、確実にやる気が違っています。『スタディサプリ』による基礎知識の反復学習や受験勉強指導、そして経験ある教師たちのキャリア教育と進路指導の両輪で、生徒の選択肢を広げる総合学科でありたいですね」と、導入から関わってきた3年学年主任の黒羽博行先生。

都立の総合学科では初の「スタディサプリ」導入。今後の活用が楽しみである。